

幕末
佐賀藩

近代化のトップランナー ④



斉正(なりまさ)公蘭船ゲデー号訪問図(公益財団法人鍋島報効会蔵) ※斉正=直正

長崎警備を
通して西欧先
進諸国の動向
に通じていた
直正は、医学
や軍事などで
積極的に西欧
の学問・知識
や科学技術の
導入を図った。
嘉永2(1849)年

「私の家来たちはとにかく学ばねばならぬのだ」これは安政元(1854)年、長崎へ入港したオランダの蒸気船に、

とにかく学ばねばならぬのだ

県立佐賀城本丸歴史館 学芸担当

南里 昌芳

藩主の熱意 技術に結実

行われた種痘(天然痘の予防接種)の成功で、西洋医学が広まった。直正はワクチンを長子淳一郎(後の第11代佐賀藩主鍋島直大)に接種させ、これが成功すると領内に広がり、やがて全国に普及した。

嘉永3(1850)年には、佐賀城下の築地(日本初の反射炉)を築いた。蘭学者の杉谷雅助が

「翻訳した蘭書をもとに、反射炉の建設にあたり、2年後に国内で初めて大砲の製造に成功した。製造には、後に佐賀藩が静岡・田代孫六郎ら「鑄立」の七賢人の活躍があった。

嘉永5(1852)年には精煉方を設置し、佐野常民をリーダーとして優れた蘭学者や技術者を集め、物理・科学の研究や機械の試作、蒸気機関の研究を行った。ところが、小規模な実験は成功するものの、実用化への大規模な実験になると失

敗が続いた。経費節減のため、藩政幹部は精煉方の廃止を主張したが、直正は、「これは自分の道楽だから制限するな」と言って存続させた(『鍋島直正公伝』)。

翻訳した蘭書をもとに、反射炉の建設にあたり、2年後に国内で初めて大砲の製造に成功した。製造には、後に佐賀藩が静岡・田代孫六郎ら「鑄立」の七賢人の活躍があった。

嘉永5(1852)年には精煉方を設置し、佐野常民をリーダーとして優れた蘭学者や技術者を集め、物理・科学の研究や機械の試作、蒸気機関の研究を行った。ところが、小規模な実験は成功するものの、実用化への大規模な実験になると失

敗が続いた。経費節減のため、藩政幹部は精煉方の廃止を主張したが、直正は、「これは自分の道楽だから制限するな」と言って存続させた(『鍋島直正公伝』)。

直正によって進められた佐賀藩の学問や研究、技術開発は、当時国内でもトップであり、その成果は政治のみならず科学技術、教育、文化の面でも明治日本の近代化に大きく貢献した。

◆◆◆
特別展「幕末佐賀藩の挑戦(チャレンジ)」、企画展「海外雄飛 閑叟(かんそう)と三重津海軍所」は佐賀市の県立佐賀城本丸歴史館で9月23日まで。

紙面編集・小石 克、南里美紀

日 読書

月 衣食住

火 健康・シニア

火 文化・学芸

水 教育・若者

木 趣味・余暇

金 文化・学芸

土 映画